

祭りは地域のアイデンティティ——再現したい「日前宮砂持祭り」

「道普請(みちぶしん)」という言葉聞いたことがあるでしょうか。近年は、世界遺産に登録された熊野古道で、参詣道の維持・修復のため、土の補充等をボランティアで行う「道普請ウォーク」が定番化され、企業や団体が、CSR活動や研修の一環として協力し、健康的なトレッキングも兼ねて多くの人が参加している。

「普請道楽」(建築に凝ったり、何軒も家を建てること)や、「安普請」(安っぽいつくりの建物)という言葉以外では、現在、あまり使われない「普請」であるが、元々、仏教用語で、「広くあまねく人々に請い、(堂塔の建築や修繕等に)力を貸してもらい、進めること」をいう。「建設」という言葉は、明治時代、外来語を翻訳した際につくられた新しい和製熟語で、それ以前は「普請」が用いられた。相互扶助・自治・公共事業的なニュアンスをもつ。

ところで、和歌山市秋月の「日前宮」は、紀伊大神・旧官幣大社・延喜式内社で、『日本書紀』に日像鏡(ひがたのかがみ)を祀る社と記され、古くから崇敬されてきた。徳川家康と初代紀州藩主、徳川頼宣を祀る和歌浦の「東照宮」とともに和歌山を代表する社である。先日、和歌山市立博物館で、江戸時代に日前宮周辺で行われた大規模な道普請の祭礼、「砂持祭り」の様子を描いた色鮮やかな絵巻物「日前宮砂持絵図」を知る機会をえた。

「砂持祭り」とは、神社や寺院の造営の修理等に必要ない土砂を、地域住民が勤労奉仕で運ぶもので、古くから全国各地にみられる。大坂の都市部でも川や堀の浚渫(しゅんせつ)等に、町民や商人が中心となって活躍し、公共工事とレジャーを兼ねた一石二鳥の催しとなった。岡山県の高梁川流域の水害にかかる阿智神社や熊野神社の特殊神事「御砂持祭」は今も続いている。

「日前宮砂持絵図」には、享和元(1801)年3月から4月の約1ヶ月間に行われた和歌川の浚渫と日前宮への道普請工事に繰り出した人々の賑わいの様子が生き生きと描かれている。当時の文書には、「…大橋の東つめに船にて砂積み来る事山の如し、町々の人々思々に、荷持、だんじり、砂引車に、笛、太鼓、三味線に囃子立…古今珍しき人数賑わふ事限りなし…道作り皆済み、鍬納めとや、餅まき有、余り珍しきこと故、末代の人の咄にも成るべきとて、絵図にて書留め置き…」と絵図制作の意図を記している。

日前宮砂持祭りは、和歌川や堀川周辺の、道普請に恩恵を受ける近隣の商工業者が主体となり、内町(現在の和歌山市本町や九家ノ丁)や広瀬、新通り、北新、名草郡等35地区から45の台車や屋台が出た。

絵図には、町中を練り歩く祭礼の「練り物」——仮装行列や神輿、山車、山鉾、傘鉾、祭礼の屋台、作り物等が描かれているのであるが、私が驚いたのは、絵巻物の上辺に所々、長い背びれのように紙を貼り足し、元の幅をはみ出す大きな山車等を描き、紙を折り畳んでいるのである。

この砂持祭りが、享和元年の1回だけなのか、複数回行なわれたのか、記録はなく、不明である。近年、同様の祭りが、復活・再現されるケースが報道されている。例えば、広島市の「砂持加勢祭り」は、城下を流れる本川の川ざらえを祭りの行事として、幕末に唯一度だけ行われた幻の祭りであったが、残された絵図に基づき、「広島城天守閣再建50年記念」として、150年ぶりに甦った。

全国各地で魅力的な祭りが催される。本年4月末、山口県の名勝、錦帯橋周辺で開催された「錦帯橋祭り」では、江戸時代の参勤交代を再現した大名行列等に、県内外から約46,000人が集まった。行列には市民270人が参加し、県無形文化財の踊り等を披露した。同県防府市では「目玉企画」として、「女神輿」がギネス世界

記録を達成、話題となった。「装飾した60基以上の神輿で、途切れずに100mパレードする」というギネス認定の条件を大きく上回り、「100基の神輿を、約1,800人の女性が担いで練り歩いた」という。

「日前宮砂持祭り」が、新興地の商人等、町民主導型の祭りであるのに対し、和歌浦・東照宮の神輿渡御行列「和歌祭り」は、壮大な紀州藩主催の官祭であった。元和8（1622）年から、徳川家康（元和2年4月17日死去）の命日に行われ、今も受け継がれている。元和8年の記録によれば、棒振を先頭に薙刀振や母衣（ほろ）舞、鎧武者、神馬等、渡御行列は約780人にのぼったという。

地域住民や参加者が愛着をもち、地域の歴史と価値を認識し、発信力のあるまちづくり、観光振興にもつなげる祭りの維持、復活を期待したい。 （谷 奈々）

21世紀 WAKAYAMA

Wakayama Institute for Social and Economic Development

VOL.89

発行 平成 30 年 8 月 6 日
編集発行者 一般財団法人 和歌山社会経済研究所
〒640-8033 和歌山市本町 2 丁目 1 番地
フォルテワジマ 6階
TEL (073)432-1444 (代)
FAX (073)424-5350
URL : <http://www.wsk.or.jp/>
印刷 有限会社 阪口印刷所

無断転載・複写を禁ずる

裏表紙の写真は、当研究所 OB 萬羽昭夫氏撮影